

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	編輯後記
Author(s)	平木
Citation	龍南, 2 1 3 : 1 2 7 - 1 2 7
Issue date	1930-03-10
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/6954
Right	

編輯後記

「今度の龍南はどんな風だい」

「もう少ししたら持つて來ると思ふがね。どうも最初の編輯なので思ふ様に行かぬ所も多かつたさ。殊に原稿がさつぱり集まらないので悲觀したよ。けれども短歌は可也集まつた。殊に緒方君たちのすぐれたのがあるのはうれしいね。小説かい。小説は水谷君から無理に貰つたものつきりだよ。何時もはこんなぢやないのに、今度はどうしたのだらうかね。」

「新學期はどうだらう」

「うん、實は期待してゐるんだが、どうなる事やら。大体春休は大學の試験に氣を取られぬ限り可也日があるんだから、こんな時にでもがんばつて貰ひ度いもんだよ。それに新しく入る人たちにも期待されさうな氣がするし。」

「そりやさうだらう。辨當のふたを取る前にでもお菜に期待のかけられさうな氣がするものだからね。」

「お菜のたとへは少しひどいね。しかし僕の家のエッセンは悲觀するよ。毎日旨くないお菜ばかりでね。實際どうかしなければ

なるまいと考へてゐるよ。」

「そりや何處かに移るより仕方がないね。しかしどこでもエッセンは長くないさうだよ。」

「それで、まあいやいやながら我慢してゐるのだが、余りの時にはしやくだからね。」

「うん、そりやさうだよ。お菜許りでなく、何でも同じ事さ。」

「あ、丁度良い時に龍南を持つて來た。君、一冊持つて行き給へ。」

「や、ダンケ、ダンケ。家に歸つて讀んで見やう。さよなら。」

「まあ良いぢやないか。一寸位ひ遊んだつて」

「いやもう試験だから、それに僕は東洋史が赤丸だよ」

「フフ、ばやさよなら」 (平木)